

## 郷土話方資料(1)

— 今から七十年前 昭和七年十二月十日

## 佐伯尋常高等小学校

紹介者 山本 保

(会員 佐伯市池船町)



## (一) 神武天皇

天照皇大神の御孫ニニギノミコトは、大神のおほせに

したがって、たくさんの家来をつれて、日向国に御降りになりました。それからは、日向国の地方は、大変よく治まって、人民も安らかに暮らしていましたが、大和国にナガスネノヒコと云ふ悪い者がいて、人民を苦しめるので、尊の御孫の神武天皇は、御兄五瀬命と共に、多くの家来をつれて大和の国賊を平げんと、軍船を率いて、日向国を出発いたしました。

何分、大昔のこととて、所々におたちよりになり、舟の修繕をしたり、兵糧を積み込んだり、大変御難儀をしました。御難儀の内にも、一同元氣よく、東の方をさして、御進みになりました。もちろん、此の佐伯の沖合いを、御通行になられましたのです。その時、南郡の港にも、お立ち寄りになっています。

最初、御立ち寄りになったところは、上入津村の畑野浦の港で、ここでは、しばらく御休養になったとの事です。

今此の村に、伊勢本明神社といって、神武天皇をお祭りしてあるお社がありますが、その御神体は、大変古い土器で、当時、天皇の御使用になっていた物だという事です。

畑野浦を御出発になった天皇は、隣村の米水津にも御立寄りになり、米や水をたくさん御積み込みになったそ

うで、それが原となって、其處の村を、米水津村と呼ぶようになったそうです。

次いで、鶴見岬を御通りになり、佐伯の沖にお出でになりましたが、此の佐伯の沖では、大入島に御碇泊になりました。今、日向泊とよばれているところが、そこなのです。

潮のみちた時などは、全部、海になってしまいます。潮が引いてしまうと、奇麗は水がこんくと湧き出て、少しも塩味もなく、実に立派な水だそうです。天皇は、此の井戸から、軍船に御使用の水を御汲みになったのです。

こうして、天皇は、だんくんと東の方へ御進みになって、今の大阪の土地に御上陸なされ、直ちに、ナガスネノヒコを御攻めになりましたが、御兄五瀬命が、御怪我をなさいましたので、戦をやめ、



神の井(日向泊)

大阪を出て和歌山の方へ御廻りになり、そこから御上陸遊ばして、方々の賊共を打ちしたがへ、遂に大和の国に攻め入り、ナガスネノヒコを打ちしたがへてしまいました。金色のとびが来て、弓の御先にとまったのは、此の時の戦だったのです。

それから、天皇は橿原の地で、第一代の天皇の御位に御つきになりました。

紀元節といふのは、このめでたい日をお祭りする日なのです。今、大和の国には、橿原宮と言う御社がありますが、天皇をお祭りしてあるのです。(つづく)

### 川名のルーツ

#### ◆西山川

宇目郷の中心からみて西の方の山間に西山集落がある。付近に城山があり、かつてとりでがあつて皿内(さらうち)城と呼ばれたが、そこからみても西方。

#### ◆中岳川

中岳という集落が川岸にあるが、付近にそうした名の山はないので、岳は山ではなく、ダキ、つまり崖地、岸壁と考えられる。(『日本全河川ルーツ大辞典』)